綾瀬市道の駅基本計画　概要版

1. 道の駅基本計画について

本計画は、綾瀬市総合計画2030に位置付けられた道の駅整備への取り組みとして、施設の機能や規模、整備運営手法や、道の駅の実現に向けた今後の取り組み等を整理するものです。

本市は、令和3年3月に綾瀬スマートICが開通し、アクセス性が格段に向上しました。その契機を活かす方策として、市内の産業・観光を活性化し、将来を見据えた持続可能なまちづくりに寄与する有効な手段であると考えられる道の駅の整備に向けて、本計画を策定しました。

＜これまでの取り組み＞

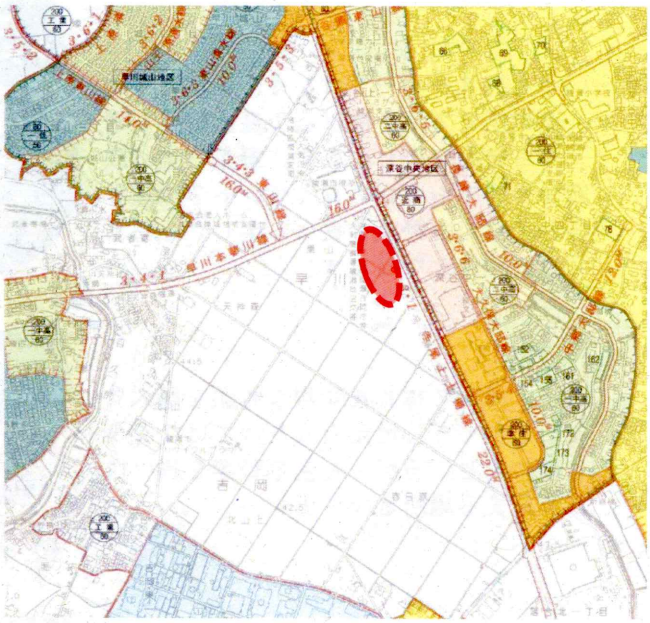
H28	・地域振興施設等整備計画を策定 ・施設整備検討委員会を設置
H29	・予定地の境界査定・測量の実施 ・市民アンケート、商圏調査等を行い、その結果から事業計画、整備手法等を検討
H30	・道の駅として整備することを方針決定 ・指定管理者の選定条件を整理 ・道の駅設置に伴う周辺道路交通への影響を調査解析、協議の開始
R1	・予定地と影響する周辺道路において境界査定・測量・地質調査を実施 ・用地取得に向けた不動産鑑定等を実施
R2	・道の駅の基本設計業務を完了 ・用地取得に向けた補償調査、地歴調査を実施
R3	・土地利用において、事業進捗に支障の可能性が示唆されたため地質調査を実施 ・調査の結果、事業継続が困難と判断し、事業の見直しを決定

2. 対象敷地

事業地選定にあたっては、当時検討した候補地も踏まえ、県道42号の沿道において一団の土地の確保が可能と考えられる候補地を再選定し、以下の条件を満たした、市役所南側周辺敷地を予定地として設定しました。

〔条件１〕綾瀬スマートICが接続する県道42号とのアクセスが容易なこと。
〔条件２〕南北方向の広域軸に位置付ける重点事業のエリアに該当すること。
〔条件３〕農業振興の地域活性化に資する立地性や周辺環境を有すること。
〔条件４〕拠点形成のための機能配置が可能な一団の敷地規模を有すること。

＜事業予定地＞



3. 道の駅の基本的方向性

道の駅整備にあたる前提条件や地域の課題を踏まえ、綾瀬市のコンセプトを整理しました。綾瀬の魅力を感じられ、誰もが楽しい時間を過ごすことのできる道の駅を目指します。

道の駅の整備にあたる基本方針と地域課題

- 【基本方針１】綾瀬スマートＩＣ開通の契機を最大限に活用できる地域拠点
- 【基本方針２】道路利用者への安全で快適な交通環境の提供
- 【基本方針３】「綾瀬」を発信する拠点
- 【基本方針４】防災機能の強化

- 【地域課題１】地域産業の活性化
- 【地域課題２】観光資源の創出 魅力向上
- 【地域課題３】地域住民・団体の活躍の場づくり
- 【地域課題４】賑わいの創出

↓

道の駅の導入機能

- ①休憩・滞留機能　綾瀬を感じられる「やすらぎ」
- ②消費・流通機能　綾瀬ブランドを活かした「もてなし」
- ③観光・体験機能　綾瀬ならではの「ふれあい」
- ④交流・連携機能　綾瀬でかがやく「にぎわい」災害に対しての「あんしん」

↓

道の駅のコンセプト

- あやせの魅力を感じられる場所
- 富士山を眺望しながらこどもの時間、大人の時間を過ごせる場所

4. 道の駅の導入機能・施設の整理

道の駅に導入する機能・施設について、綾瀬の暮らしを感じ、**こどもも大人も大切な時間を過ごせるシチュエーション**をイメージして整理しました。

道の駅の導入機能イメージ

1) 休憩・滞留機能
綾瀬を感じられる「やすらぎ」

2) 消費・流通機能
綾瀬ブランドを活かした「もてなし」

3) 観光・体験機能
綾瀬ならではの「ふれあい」

4) 交流・連携機能
綾瀬でかがやく「にぎわい」
災害に対しての「あんしん」

道路付帯施設

①駐車場
- 大型車も含め、ゆとりあるスペースを確保
- EVステーション等の設置

②トイレ
- 誰でも安心して自由に立ち寄れる、24時間利用可能なトイレを計画
- こども用のトイレやパウダールームなどを併設したトイレを検討

③休憩所
- 24 時間利用できる施設
- 道の駅を訪れた人々が気軽に休憩できる場所
- 乳幼児をもつ子育て家族が安心して利用できるよう、授乳室を設置

④情報発信施設
- 観光情報やイベント情報、交通情報等を提供
- 観光施設・観光ルートの紹介、体験型・交流型観光等の総合窓口を計画
- 花きのスペースを設け、市の花「ばら」などをPR

防災施設
- 災害時の物資輸送の拠点としての利用を想定
- 備蓄倉庫・非常用発電機を整備
- ボランティアセンターとしての活用を想定した施設
- 日常的には防災訓練・総合学習の場として活用

地域振興施設

農産物・加工食品の販売所
- あやせ産農産物を中心に、四季折々の食材を販売

こども時間のシチュエーション

・いつものスーパーではなく、家族と一緒に道の駅まで足を伸ばして産直野菜を購入する時間を楽しめます。野菜の詰め放題など誰でも楽しめるイベントを開催し、自分で選んだ野菜を食べる楽しさを感じられる場所となります。

（参考：道の駅よがんす白竜）

大人時間のシチュエーション

・毎日、綾瀬で採れた新鮮な野菜を購入することができ、地元の人だけではなく少し離れたところからも産直野菜を買いに人が集まる場所となります。

（参考：道の駅しなの）

飲食施設・軽飲食販売所
- 農畜産物を中心に地元産品を使用したメニューが食べられるレストランを計画
- 富士山の見晴らしの良い場所でのBBQや、軽食を気軽に食べることのできる空間を演出

こども時間のシチュエーション

・フードコートでは気軽に持ち運びできる食べ物を提供し、休日は広場やベンチがこどもたちで賑わいます。また、綾瀬で作られた調理器具を用いた実演販売なども行い、調理風景を楽しめます。

（参考：道の駅あらい）

大人時間のシチュエーション

・綾瀬の調理器具を使用して実演販売し、気に入った商品をその場で注文・購入できます。
・眺めのいいテラスを設置し、富士山の展望デッキとしてや、週末には山並みを眺めながらビールを片手に、バーベキューを楽しめる空間となります。

（参考：道の駅上野）

観光周遊するための拠点施設
- ロケ地等観光スポットを巡ることができるレンタサイクルの検討
- サイクリストの休憩スポットや、工具レンタルの検討

こども時間のシチュエーション

・訪れたこどもたちにとって、綾瀬がどんなところなのか知るきっかけの場所となります。厚木基地などほかの市町村にはない場所を知り、道の駅だけでなく市内のさまざまな場所への再来訪のきっかけとなります。

（参考：道の駅ことひき）

大人時間のシチュエーション

・気候のいい春や秋には、市内をサイクリングで周遊する基点となります。友達同士、親子などさまざまな人が道の駅で借りた自転車に乗って市内各所を巡ります。

（参考：道の駅やちよ）

イベント等開催できる多目的施設
- 長時間滞在できる機能として、イベント等を開催できる空間づくりを検討
- 綾瀬市の農畜産業・工業や綾瀬市に関するＰＲイベントや、フリーマーケット、祭り、年中行事が開催できる多目的広場等を検討

こども時間のシチュエーション

・保護者はこどもを見守ることができ、こどもたちにとって安心して遊べるスペースになります。
・芝生広場ではこども向けのイベントを開催。様々なイベントを行うことで、飽きることなく何度でも訪れたくなる場所となります。

（参考：道の駅ふくしま）

大人時間のシチュエーション

・平日は企業の会議利用、地域住民のサークル活動など、休日は観光客向けのイベントや観光ツアーの拠点として使用することができます。地域住民と観光客の交流が生まれる賑わいのある空間となります。

（参考：道の駅なみえ）

農畜産工業の体験交流施設、加工施設

＜ものづくりラボ＞
- 綾瀬の工業を活用した体験ができる
- 3Dプリンター等を使用でき、ものづくりを楽しめる
- あやせの工業製品に触れることができるほか、事業者によるワークショップや企業説明会などでも利用できる

こども時間のシチュエーション

・休日はものづくりワークショップが開催され、木工や電子工作など様々な「ものづくり体験」に参加し、ものづくりの魅力を体感することでこどもの学びになる時間が過ごせます。

（参考：浅草橋工房）

大人時間のシチュエーション

・DIYやハンドメイドなどラボにある工具・材料を使ってものづくりに熱中する時間を過ごすことができ、市民のものづくりへの理解が深まります。

（参考：DIY FACTORY）

＜農産物収穫体験＞
- 季節ごとに作物を育て、農産物収穫を楽しめる場
- 綾瀬の農産物を知ってもらう機会
- 地域の農家と連携し体験の場を創出

こども時間のシチュエーション

・こどもたちが、農業体験を通し、市内農業や農産物への理解、食育につながる学びの場を過ごすことができます。
・家族と一緒にとうもろこしやブロッコリーなど市の特産物はもちろん、季節に応じた収穫体験を通じて、農業を体感することができます。

（参考：道の駅やちよ）

大人時間のシチュエーション

・野菜作りができる区画があり、農業や家庭菜園に興味のある市民が集って農的な暮らしに関わることができます。
・初心者も気軽に農業に携わることができます。

（参考：道の駅やちよ）

＜加工場・料理体験施設＞
- 農畜産物を使った料理教室
- 農や食を発信するセミナーなどを開催

こども時間のシチュエーション

・特産品である豚を使ったソーセージづくりのほか、お菓子づくり、そばづくりなどの加工体験が楽しめる時間を過ごすことができます。

（参考：浅草橋工房）

大人時間のシチュエーション

・地場農畜産物を使った料理教室や、みそづくり教室などにより、地域の魅力を感じることができます。

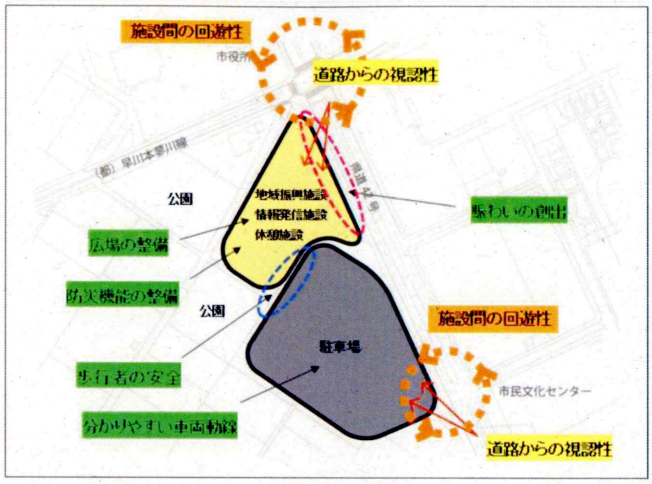
（参考：谷当工房）

5. 配置計画の検討

整備にあたっては各施設の役割を踏まえて、関連性の高い施設、相互干渉を避ける施設を把握して、施設配置について次の事項に配慮して配置計画を検討します。

【駐車場】
県道42号及び（都）早川本蓼川線からのアクセスを視野に入れた配置を検討。また、駐車場から各建物への移動の安全性に配慮した動線計画を行う。
【地域振興施設】
県道42号を通る車に対して存在感を出すため、視認性の高い位置に配置し、来訪者に対して賑わいを前面に押し出した配置及びデザインとする必要がある。
【広場】
地域振興施設に隣接して配置し、建物内のオープンスペースとイベント広場の一体的な利用を想定する。

＜施設配置イメージ＞



6. 施設の規模の検討

交通量や類似事例を踏まえ施設の規模算定を行いました。今後、駐車場の車両動線や施設の基本設計等における検討により精査していきます。

施設	施設・機能	必要な面積（㎡）
道路付帯施設	駐車場	12,000
	トイレ	390
	休憩所	210
	情報発信施設	50
地域振興施設	農畜産直売	200
	物販施設	200
	レストラン	600
	カフェ	140
	体験交流施設	360
	レンタサイクル	32
	イベント広場（屋外）	1,100
防災施設	備蓄倉庫、非常用発電機	100
その他	屋外通路、緑地等	5,000
合計面積		20,382

7. 年間利用者数・売上の推計

交通量を踏まえ、年間利用者数を推計し、レストランや直売所、体験コンテンツの売上予測を算出・検討しました。

【年間利用者推計】約 67万人

（平日利用者数1,796人×平日日数234日）
＋
（休日利用者数2,131人×休日日数116日）

【年間売上推計】約 6.2億円

レストラン	**：約**	**1億円**
カフェ	**：約**	**8,500万円**
直売所・物販	**：約**	**4億500万円**
体験プログラム等	**：約**	**3,000万円**

8. 事業手法の検討

市の上位・関連計画等を踏まえ、道の駅は、市内の持続的な経済好循環に資する活性化策として市の政策との連動が求められていることから、市が道の駅に求めている機能性を確保しつつ、民間ノウハウを活用することを目的に、公共が施設を整備し民間が管理運営を行う「指定管理者制度」を適用した「公設民営」方式で管理運営を行います。

9. 開業目標

今後の事業推進にあたっては、令和９年度開業を目標としています。

発行：令和６年１月　綾瀬市
〒252-1192 神奈川県綾瀬市早川550番
問合せ先　都市部　道の駅整備推進室　道の駅担当　✆0467-70-5662